

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年5月1日(2014.5.1)

【公表番号】特表2013-529178(P2013-529178A)

【公表日】平成25年7月18日(2013.7.18)

【年通号数】公開・登録公報2013-038

【出願番号】特願2012-557275(P2012-557275)

【国際特許分類】

A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 K	35/76	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)
C 0 7 K	19/00	(2006.01)
C 0 7 K	16/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	48/00	Z N A
A 6 1 K	39/395	Y
A 6 1 K	37/02	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 K	35/76	
C 1 2 N	15/00	A
C 0 7 K	19/00	
C 0 7 K	16/00	

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月11日(2014.3.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

個体において腫瘍細胞の増殖の抑制に使用するためのタンパク質をコードするポリヌクレオチドを含む組成物であって、

前記ポリヌクレオチドによってコードされたタンパク質が、免疫グロブリンFc部および前記腫瘍細胞によって発現されるレセプターのアンタゴニスト・ペプチドを含む融合タンパク質であること、

前記アンタゴニスト・ペプチドが、配列 KGVSLSYR(配列番号6)を含むことを特徴とする組成物。

【請求項2】

前記タンパク質をコードするポリヌクレオチドが、組換え腫瘍退縮性ワクシニアウイルス中に存在する、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記融合タンパク質がさらにTヘルパー・エピトープを含む、請求項1に記載の組成物

。

【請求項 4】

前記FcがヒトIgG1 FcまたはヒトIgG3 Fcである、請求項1に記載の組成物。

【請求項 5】

前記組成物が、全身投与による使用のための組成物である、請求項2に記載の組成物。

【請求項 6】

前記使用が、さらに、前記個体に腫瘍血管破壊剤を投与することを含む、請求項5に記載の組成物。

【請求項 7】

前記タンパク質をコードするポリヌクレオチドが、抗原提示細胞に存在する、請求項1に記載の組成物。

【請求項 8】

融合タンパク質をコードするポリヌクレオチドを含む組成物であって、

前記融合タンパク質が、免疫グロブリンFc部および腫瘍細胞によって発現されるレセプターのアンタゴニスト・ペプチドを含むこと、

前記アンタゴニスト・ペプチドが、配列 KGVSLSYR(配列番号6)を含むこと、

前記融合タンパク質の発現後、2つの融合タンパク質のFc部の間にジスルフィド結合が生じ、2つの前記アンタゴニスト・ペプチドの単量体ユニットに空間的な近接をもたらすこと、

前記単量体ユニットの間に連結アミノ酸が存在しないことを特徴とする組成物。

【請求項 9】

請求項8に記載のポリヌクレオチドによってコードされるタンパク質を含む組成物。